

# フォーカス

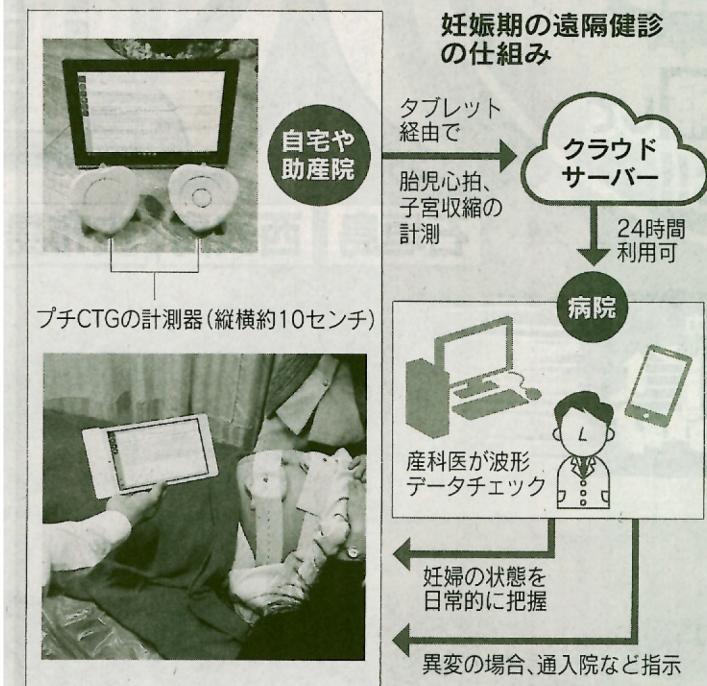
## 西日本企業

期待の新星——2

妊婦が在宅のまま産科医の遠隔健診を受けられる。そんな未来を先取りした仕組みを用意するのが医療機器製造のメロディ・インターナショナル(高松市)だ。ICT(情報通信技術)を活用し周産期医療を変えようとしている。妊婦は胎児心拍などのデータを集める小型機器により、遠くの産科医とつながり、異変の予兆把握や出産日の見極めがしやすくなる。

### 機器を小型化

# 遠隔健診 妊婦守る



## 在宅で安心 海外も視野

計が胎児の健康を伝え  
る。子宮収縮計(陣痛計)  
とともにベルトで固定し  
手元の専用タブレットに  
波形を刻んでいく。

新開発のクラウド型胎  
児心拍計・子宮収縮計「  
チCTG」は、病院据え  
置き型の胎児監視装置を  
つくった大学教授の協力を

経由で病院の産科医らが  
パソコンやスマートフォ  
ンから閲覧する。2011  
年9月から奄美大島  
(鹿児島県)や小豆島(香  
川県)の病院で機能確認

を得て、いち早く小型化  
した。母胎データを20  
分ほど測定し、ネット  
経由で病院の産科医らが  
パソコンやスマートフォ  
ンから閲覧する。2011  
年9月から奄美大島  
(鹿児島県)や小豆島(香  
川県)の病院で機能確認

同社は電子カルテを手  
がけ、収益を上げていた  
会社の社長だった尾形優  
子・最高経営責任者(C  
EO)が15年7月に起業。  
総務省や経済産業省の助  
成金7000万円を得て

普及を目指すのは産科  
医不足が著しい離島やへ  
き地だけではない。「高  
齢妊娠や仕事を続けてい  
るなど、丁寧なケアが必  
要な人は都市部に多い」  
(尾形CEO)。費用も  
含めた入院・通院負担を  
減らしつつ、在宅での安

全安心を確保する。  
協力する名瀬徳洲会病  
院の小田切幸平医師は  
「妊娠、医師双方のメリ  
ツトが大きい。病院や一  
定地域内の施設に配備す  
る利用も想定できる」と  
話す。複数の妊婦が切迫  
早産で入院していても夜  
間などにデータを基に遠  
隔で把握・指示でき医師  
の負担も減る。

### メロディ・インターナショナル

パソコンやスマートフォ  
ンから閲覧する。2011  
年9月から奄美大島  
(鹿児島県)や小豆島(香  
川県)の病院で機能確認

40分ほど測定し、ネット  
経由で病院の産科医らが  
パソコンやスマートフォ  
ンから閲覧する。2011  
年9月から奄美大島  
(鹿児島県)や小豆島(香  
川県)の病院で機能確認

パソコンやスマートフォ  
ンから閲覧する。女性に1出  
産あたり2万円の利用料  
をもらい病院と折半する  
構想だ。5年後に売上高  
50億円を目指す。

市場は国内外にある。  
アジアなど急速に発展す  
る都市郊外では医療体制  
が追いつかない。国際協  
力機構(JICA)の事  
業で納入したタイの病院  
では「救える命が増える」と評価は高い。内外10  
0人超の女性が実証に  
協力し、インドネシアや  
ミャンマーなどの視察  
も重ねる。「遠隔医療で  
安心・安全な出産をすべ  
てのお母さんに」を掲げ  
るメロディ社。サービス  
開始を海外も待ってい  
る。

能を加えて産科医と妊婦  
を日常的に結ぶ健康管理  
システムとして数十万台  
数百万円で病院や診療所  
に販売する。女性に1出  
産あたり2万円の利用料  
をもらい病院と折半する  
構想だ。5年後に売上高  
50億円を目指す。

能を加えて産科医と妊婦  
を日常的に結ぶ健康管理  
システムとして数十万台  
数百万円で病院や診療所  
に販売する。女性に1出  
産あたり2万円の利用料  
をもらい病院と折半する  
構想だ。5年後に売上高  
50億円を目指す。

(高松支局 深野尚孝)  
尾形優子CEOのイ  
ンタビューを電子版に  
▼地域コラム  
次回は27日に掲載します。